

# Figureの人間対ヒューマノイド対決検証報告

## エグゼクティブサマリー

Figureが公開した「Man vs Machine」は、**Figure公式YouTubeのライブ配信アーカイブ**、**Figure公式X / Brett Adcockの公式X・LinkedIn投稿**、および**Figure公式サイト上のFigure 03 / Helix 02 / 物流デモ関連ページ**によって、実在の公開イベントとして確認できました。他方で、**Figure公式サイトのニュース一覧**には、この対決自体の**専用プレスリリースは確認できず**、公開一次ソースの中心は配信アーカイブとSNS投稿です。つまり、このイベントは「正式なニュースリリース付き実験」よりも、**ライブ配信を主軸にした公開実証兼PRイベント**として理解するのが妥当です。 ①

競技の**最終公式結果**は、Figure創業者兼CEO Brett Adcockの公式LinkedIn投稿によれば、**F.03が12,732個、Aimeが12,924個で、人間側が192個差で勝利**でした。Figureが同投稿で併記した平均値は、**F.03が2.83秒/個、Aimeが2.79秒/個**です。10時間は36,000秒なので、この「秒/個」は**アクティブ作業中のサイクルタイム**ではなく、**休憩込みのシフト平均スループット**を表していることが分かります。これは公開された数字としては有用ですが、**純粋な把持・反転・載置能力の比較指標としては不十分**です。 ②

方法論上、最大の論点は五つあります。**第一に**、Figure自身がルール説明で「**the team that sorts the most packages wins**」と表現しており、**ロボット側が単一機体なのか、F.03の“チーム”なのか**が曖昧です。**第二に**、公開報道ではコンベヤが**大きなループで、同じ荷物が繰り返し循環**していたとされ、実物流のSKU流入とは異なる条件です。**第三に**、**誤り率・誤向き率・落下率・介入回数・自動リセット回数**が公開されていません。**第四に**、人間側はカリフォルニア州法に従う休憩がある一方、ロボット側は**複数機体引き継ぎやメンテナンス離脱+別機体引き継ぎ**が許容されていた可能性が高く、対称性が弱いです。**第五に**、**荷物の寸法・重量・材質分布・ラベル分布**が未公開です。したがって、この結果は「一般物流における人間対ヒューマノイドの普遍的勝敗」ではなく、**Figureが設計した狭い作業セルにおける、長時間連続稼働と近人間速度の公開デモ結果**として読むべきです。 ③

技術的には、Figure 03とHelix 02の組み合わせは、**高頻度視覚入力、全身制御、触覚、視覚からのエンドツーエンド制御**を武器に、狭い整流タスクではかなり強くなっています。Figure公式資料では、Figure 03は**新しいカメラ構成でフレームレート2倍、レイテンシ4分の1、視野60%拡大**、Helix 02は**全身制御・触覚・固有感覚統合**をうたっています。一方で、Third-party coverage と専門家コメントは、**例外処理・誤り率・実物流での汎化こそが商用化の判断軸**だと指摘しています。Ohio StateのAyanna Howardは、長時間止まらなかった点は印象的としつつも、実物流投入にはまだ遠いと評価しました。 ④

労働・倫理の観点では、このデモは二義的です。**倉庫の反復仕分けは肩・背中の痛みや筋骨格系負荷を伴う作業**であり、置換対象としての合理性はあります。しかし、Figureの事前告知と事後コメントは**“Man vs Machine”**や**“This is the last time a human will ever win”**という対立的な言い回しを採用しており、公開コメント欄でも「労働者支援ではなく置換劇に見える」という批判が出ています。したがって、このイベントは**技術デモとしては強いが、社会的受容の設計としては粗い**、というのが本報告の結論です。 ⑤

## 事実確認と一次ソース検証

今回の対決が実際に行われたことは、少なくとも四系統の一次・準一次ソースで裏づけられます。**Figure公式YouTubeチャンネル**には「F.03 Livestream - Day 5: Man vs. Machine」および後続の「Day 6」表記のアーカイブがあり、**Figure公式X / Brett Adcock公式X**にはDay 5開始告知と継続配信の痕跡があり、**Brett Adcock公式LinkedIn**には対決前告知・ルール説明・最終結果が連続的に掲載されています。加えて、Figure

公式サイトには対決そのものの告知記事は見当たらないものの、Figure 03本体仕様、Helix 02、物流操作デモに関する技術記事があり、配信で使われたロボットとAIスタックの技術的背景を確認できます。 6

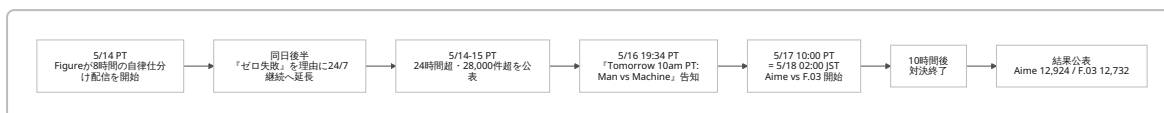
対決の時刻については、Brett Adcockが「Tomorrow 10am PT: Man vs Machine」と告知しており、これは2026年5月17日 10:00 PT、日本時間では2026年5月18日 02:00 JSTに相当します。したがって、ユーザーが指定した「2026年5月18日 JST」という日付指定は公式告知と整合しています。 7

一方で、Figure公式サイトのニュース一覧には対決専用ページが確認できません。現時点での公開一次ソースは、ライブ配信アーカイブとSNS上の投稿に偏っています。これは厳密な外部検証に不利で、後述するように、スコアリング定義・失敗ログ・介入ログ・荷物仕様の空白を生んでいます。 8

対決のルールについて、最も明確な一次ソースはFigure公式LinkedIn投稿のコメントです。そこでBrett Adcockは、10時間連続の head-to-head であり、最も多くの荷物を仕分けたチームが勝ち、人間にはカリフォルニア州法に従う meal breaks と paid rest breaks がある、タスクは小型荷物についてバーコードを検出し、持ち上げ、バーコードを下向きにしてコンベヤへ戻すことだと説明しています。ここで重要なのは、公開ルール中の主語が「robot」ではなく「team」である点です。これは、ロボット側が単一機体固定なのか、複数機体ないし交代を含む体制なのかを曖昧にします。 9

## ライブ配信の経過と主要場面

Figureの連続配信は、もともと「8時間の自律シフト」として始まり、その後、「ゼロ失敗だったので止めずに24/7へ延長」という流れに変わりました。Brett Adcockは、8時間配信後に「24/7 LIVESTREAM」へ移行したことを公表し、別の公開発言では24時間超・28,000件超を報告しています。さらにDay 2の段階で、Bob, Frank, Garyの名前付きで24/7運転中と案内していました。したがって、対決は単独のショートイベントではなく、数日継続中の公開耐久デモの中に差し込まれた特別企画でした。 10



対決の途中経過をFigureが時系列CSVとして公開した形跡は見当たりませんでした。ただし、公開検索結果に残った配信画面OCRから、いくつかの残り時間付きスコア表示を拾うことができます。高信頼ではないものの、少なくとも残り05:09:25で人間6,260・F.03 6,253、残り02:52:47で人間9,675・F.03 9,198、残り00:58:22で人間11,576・F.03 11,561、残り00:05:33で人間12,802・F.03 12,643、残り00:00:03で人間12,924・F.03約12,730という、終盤にかけての差分収束が確認できます。最後の公式確定値はBrett Adcockの投稿にある12,924対12,732です。これらのOCR値はアーカイブ画面を転載した第三者投稿由来であり、一次ログではないため、グラフ化に使う際は近似再構成として扱う必要があります。 11

また、公開再投稿の一部では、対決相手のロボット名がBob / Jim / Roseと揺れており、少なくとも外から見える公開資料だけでは、ロボット側が対決中ずっと同一機体だったのかを確言できません。これは本イベントの最重要な検証不能点の一つです。 12

## 競技条件・測定法・結果比較

### 公開条件の整理

項目	人間側	ロボット側	公開状況 / コメント
参加者数	Aimeという1名のインターン。年齢・経験・選抜方法は未公開。 <sup>13</sup>	F.03。ただし、単一機体固定か、F.03チーム扱いかは曖昧。 <sup>14</sup>	人間は1名で明確、ロボット側の“単体性”は不明。
タスク定義	バーコード検出、荷物把持、バーコード下向きでコンベヤへ戻す。 <sup>15</sup>	同左。Figureは「小型荷物仕分け」と説明。 <sup>15</sup>	何をもって「sorted」と判定したかの詳細定義は未公開。
競技時間	10時間連続。 <sup>9</sup>	10時間連続。 <sup>9</sup>	開始は 5/17 10:00 PT = 5/18 02:00 JST。 <sup>7</sup>
休憩	California labor lawsに従う食事休憩・有給休憩あり。具体的な休憩時刻・長さは未公開。 <sup>9</sup>	休憩概念はなし。ただし、ソフト/ハード問題時は自律離脱+別ロボット引き継ぎが可能とFigureは説明。 <sup>16</sup>	条件対称性は弱い。
荷物の種類	正確なSKU構成・寸法・重量分布は未公開。 <sup>13</sup>	Figureの先行物流記事では、剛体箱、変形しやすいポリ袋、薄い封筒まで扱うと説明。対決セットが同一かは未公表。 <sup>17</sup>	対決専用の荷物仕様書は未公開。
作業セル	配信報道では大きなループコンベヤで同じ荷物が繰り返し循環。 <sup>18</sup>	背景に充電待機ロボットが見えたと報道。 <sup>19</sup>	実物流ラインというより耐久テスト色が強い。
自律性	不適用	FigureはHelix-02の完全自律・オンボード・無遠隔操作を主張。自動リセットも説明。 <sup>16</sup>	第三者監査は未確認。
充電・交代	不適用	Figure 03の公称ランタイムは5時間。Figure 03はwireless charging対応。公開配信では別機体引き継ぎが示唆されるが、対決の正確な充電/交換戦略は未公開。 <sup>20</sup>	10時間単体連続走行かどうかは不明。

### 最終比較表

指標	人間 Aime	Figure F.03	読み取り
最終仕分け数	12,924 <sup>21</sup>	12,732 <sup>21</sup>	人間が192個差で勝利。
シフト平均秒/個	2.79秒 <sup>21</sup>	2.83秒 <sup>21</sup>	差は0.04秒/個。極めて僅差。

指標	人間 Aime	Figure F.03	読み取り
シフト平均個/時	<b>1,292.4個/時</b> (12,924 ÷ 10) <sup>21</sup>	<b>1,273.2個/時</b> (12,732 ÷ 10) <sup>21</sup>	人間優位だが、差は <b>19.2個/時</b> 。
シフト平均個/分	<b>21.54個/分</b> <sup>21</sup>	<b>21.22個/分</b> <sup>21</sup>	実運用上は近い。
誤り率	<b>未公開</b> <sup>2</sup>	<b>未公開</b> <sup>2</sup>	厳密比較不能。
ダウンタイム	休憩あり。総休憩時間は未公開。 <sup>9</sup>	自動リセット・離脱引き継ぎ機構は公表。実際の回数は未公開。 <sup>16</sup>	ダウンタイムの対称比較は不可能。
介入回数	<b>未公開</b> <sup>2</sup>	未公開。Figureは「no teleoperation」を主張。 <sup>16</sup>	外部監査が必要。
エネルギー / 充電	不適用	Figure 03の公称ランタイムは <b>5HR</b> 。対決中の実充電方式は未公開。 <sup>22</sup>	10時間比較の再現性に重要。

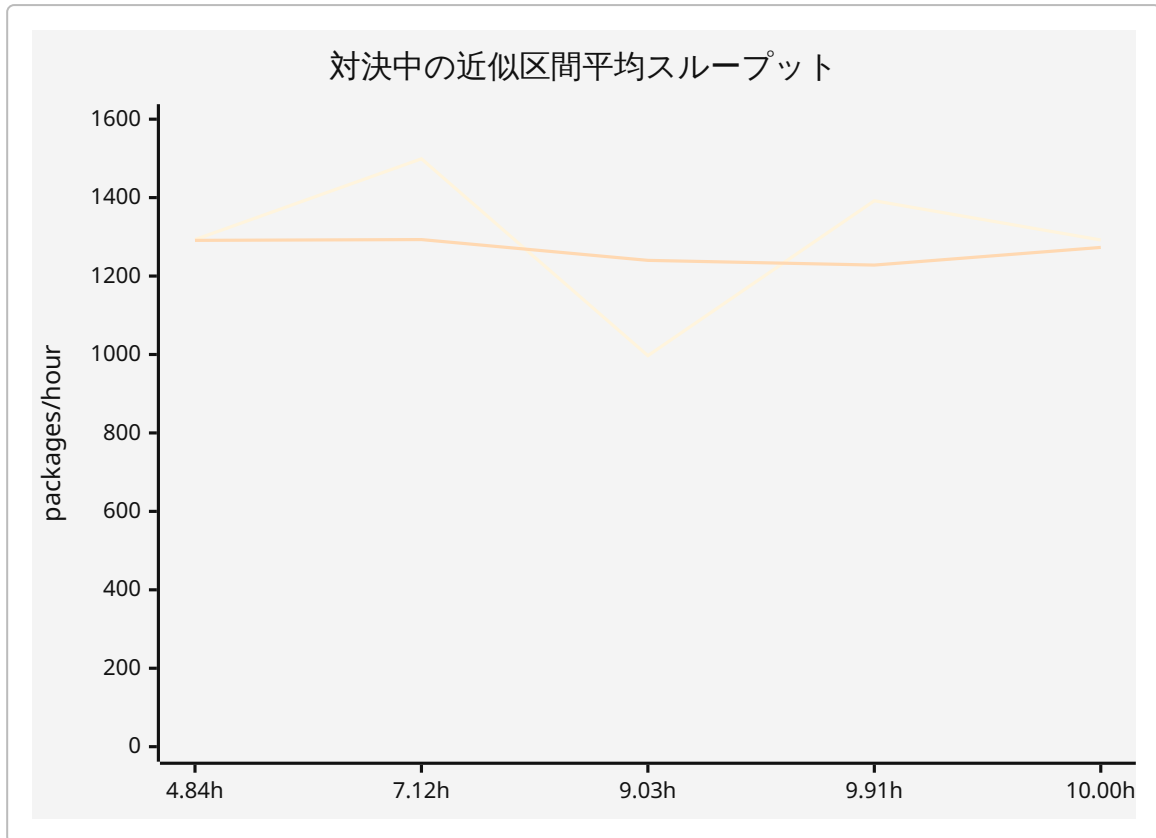
この比較で本当に重要なのは、**Figureが勝敗よりも「10時間という壁時計時間に対して、休憩込みの人間平均とほぼ同等のスループットを出せた」と見せた点**です。逆に言えば、Figureが公開した数字だけでは、一回一回の所持サイクルで誰が速かったのか、休憩時間を除いた実作業時間あたりの生産性、誤りコスト込みの優位性は判断できません。 <sup>2</sup>

## 量的分析

公開一次ソースには時系列CSVや誤りログがなく、以下のグラフは**公開再投稿に残った画面OCRと最終公式スコアからの近似再構成**です。したがって、傾向把握には有用ですが、**監査済みの公式時系列ではありません**。特に、途中のロボット名がBob / Jim / Roseで揺れているため、**単一機体の10時間連続時系列としては確定できない点に注意が必要**です。 <sup>11</sup>

### スループット推移の近似再構成

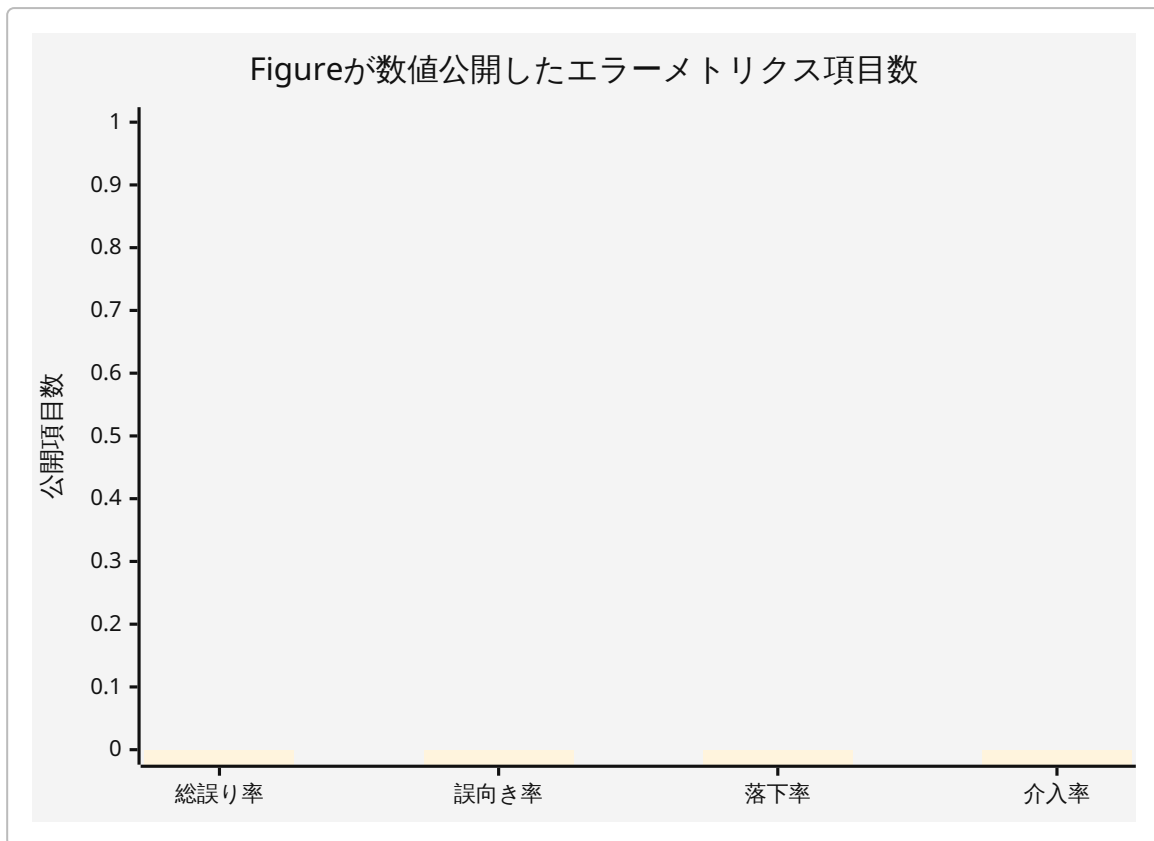
残り時間表示から逆算した経過時間ベースで、区間平均スループットを再構成すると、**人間側は中盤まで高め、その後 break を含む区間で落ち、終盤に再加速、ロボット側は1,220~1,300個/時程度の比較的安定した帯域**に見えます。これはFigureの狙いどおり、**人間の瞬発力 vs ロボットの持続安定性**という絵になっています。 <sup>11</sup>



この図で最も示唆的なのは、Figureの最終公表値 2.83秒/個 が、2025年6月のFigure公式物流記事で示された 4.05秒/個 よりかなり速いことです。ただし、前者は休憩込み10時間平均、後者は別セット・別条件の物流デモであり、荷物構成も評価法も公開比較されていないため、純粋な前年比較はできません。それでも、Figureが物流操作の速度・安定性をかなり押し上げているのは確かです。 <sup>23</sup>

### 誤り率について分かること

ユーザーが求めた誤り率グラフは、一次ソースだけでは厳密には作成できません。Figureは総誤り率、誤向き率、落下率、介入率のいずれも公開していないからです。唯一、公的報道で具体的に言及されたのは、Ayanna Howardが見た誤向き配置と1件のベルト外落下であり、これは率ではなく事例です。したがって、以下は「エラー率」ではなく、公式に数値開示されたエラーメトリクスが存在しないことを示す図です。 <sup>24</sup>



この非開示は、単なる情報不足ではありません。もし**1-2%の誤向き**があるだけでも、スキャナ待ちや人手手直しが増え、倉庫全体の実効スループットを大きく削る可能性があります。つまり、**速度だけ見れば僅差でも、誤りと回復のコストを入れると順位が変わりうる**のです。ここが、この配信の最も大きな検証空白です。

25

## 方法論の妥当性とバイアス

まず、このイベントは**実物流ベンチマーク**というより**信頼性デモ**として設計されていました。Business Insiderに対してFigure投資家のJesse Coors-Blankenshipは、コンベヤは**大きなループ**で、**同じ荷物が循環していた**と述べています。これは「新規SKUが連続流入し、誤ラベル・変形・渋滞・例外が混ざる本番ライン」ではなく、**同一物体群に対する長時間繰り返し性能試験**です。したがって、この配信が強く示したのは**長時間の安定稼働**であって、**本番倉庫全体の処理能力**ではありません。 26

次に、**比較の単位が対称ではありません**。人間側は明確に**1名のAime**ですが、ロボット側は公式ルール文面で**“team”**と表記され、Figureは別の場所で**問題があれば別ロボットが自律的に引き継ぐ**と説明しています。さらに第三者記事では、**背景で他ロボットが充電待機**していたとされます。この構図では、「人間1名 vs ロボット1台」の勝負ではなく、少なくとも**人間個体 vs ロボット運用システム**に近い可能性があります。もしそうなら、これは不当というより、**Figureが売ろうとしているものが“ロボット単体”ではなく“継続稼働可能なロボット群”**であることを示しています。だとしても、その前提は公開ルールで明示されるべきでした。

27

三つ目に、**スコア算定ルールが不完全公開**です。Figureは「最も多く仕分けたチームが勝ち」とだけ述べましたが、**ラベルが既に正しい向きの荷物を再検査する必要があるのか、取りこぼしはどう扱うのか、誤向き配置のペナルティは個数減算か再処理か、落下は無効か、自動リセット時間はスコアにどう反映されるか**が不明です。Figure自身の公開スレッドでも、視聴者が「**ロボットは既に face-down の荷物をスキップしている**

ように見えるが、それは失敗か」と疑問を呈していました。公開範囲では、この問いに対する公式な採点回答は確認できませんでした。 9

四つ目に、公開された秒/個は“壁時計平均”にすぎない点です。人間には法定休憩があり、Figureもそれを前提にしました。したがってAimeの2.79秒/個は、実作業の瞬間速度というより、休憩コストまで含めたシフト総合生産性です。これは現場運用では重要ですが、研究・技術比較としては、アクティブ時間正規化後の速度と休憩込みのシフト速度を分けて出すべきでした。Figureが後者だけを出したことで、議論が人間の疲労込みPRに引っ張られています。 13

五つ目に、第三者監査がないことです。Figureは「no teleoperation」を明言しましたが、その証明となるネットワークログ、モード遷移ログ、外部審判署名付きスコアシート、完全なイベントログは公開されていません。TechRadarやBusiness Insiderは、頭部に手を当てるなどの挙動から、一部視聴者が遠隔操作を疑ったことを報じています。私はこの疑念を裏づける証拠は見つけていませんが、疑念を晴らすための監査データもまた公開されていないというのが、公平な整理です。 28

## 技術・労働・倫理的含意

技術面で見ると、Figureは「狭いが重要な物流タスク」に適した能力をかなり積み上げています。Figure 03は、Figure公式によればフレームレート2倍、レイテンシ4分の1、視野60%拡大の視覚系を持ち、Helix 02は視覚・触覚・固有感覚を統合した全身自律制御を行います。物流記事では、Figureは以前から箱、ポリ袋、封筒のような異質物体に対する把持とラベル再配置を課題としてきました。これは、産業用ロボットが得意な剛体単一物体の繰り返しと比べて、変形物・ラベル向き・動くベルト・手指の微調整が必要なぶん、ヒューマノイドの器用さが活きやすい領域です。 29

このデモが示したロボットの強みは、疲労しないことそのものではなく、疲労をシステム設計で“運用可能な連続性”に変えたことです。Figureは、ロボットが行き詰まると自動リセットし、ソフト/ハード問題が出ると自律離脱して別ロボットが引き継ぐと説明しています。商用価値があるのは、単体F.03の腕前だけではなく、複数機体+待機+回復ループを含むfleet reliabilityです。ここは、人間1名に対する単純比較では見落としやすいポイントです。 30

一方で、人間側の強みは依然として大きいです。公開された範囲だけでも、専門家や視聴者コメントは、既に正向き荷物への対処、誤向き・落下の例外判断、より複雑な流れ全体の理解について、ロボットがまだ人間に及ばない可能性を示しています。Ayanna Howardは、配信が印象的だったと認めつつ、ロボットが行っていたのは仕分けプロセスの「小さな一部分」にすぎないと指摘しました。Agility Robotics共同創業者Jonathan Hurstの反応も、これを市場における一里塚であって決着ではないと位置づけています。 31

人間要因の観点では、この対象作業が自動化候補であること自体には合理性があります。NIOSHの倉庫・物流現場評価では、箱の積み下ろしやシュートからの仕分けが背中・肩の痛みと結びついており、反復動作や不自然姿勢は筋骨格系障害リスクとして広く認識されています。したがって、「この種の作業をロボット化したい」というFigureの方向性は、単なるコスト論だけではなく、労働衛生上の理由でも説明できます。 32

ただし、PRの語り口はかなり攻撃的でした。Brettの告知は“Man vs Machine”、結果発表は“This is the last time a human will ever win”で、公開コメント欄では「支援技術ではなく置換劇に見える」「買手の信頼形成を難しくする」という反応が出ています。技術的には安全・単調・身体負荷の高い作業を代替する理屈があるのに、公共コミュニケーションでは“置き換えを見世物化する”構図を採ったため、社会的意味づけが不必要に対立的になりました。労働受容と政策議論を考えると、Figureに必要なのは次回の勝利宣言よりも、安全・健康・生産性・再配置の設計図の提示です。 33

## 一次ソース一覧とFigureに求める追加データ

### 優先度の高い一次ソース

本件の検証で、最も重い一次ソースは次のとおりです。**Figure公式YouTubeアーカイブ**「F.03 Livestream - Day 5: Man vs. Machine / Day 6」はイベント実在の核であり、**Brett Adcock公式LinkedInの事前告知、公開ルール説明、最終結果報告**が競技条件の唯一の明示的な公開ソースです。技術背景の確認には、**Figure公式の「Introducing Figure 03」、「Introducing Helix 02」、「Helix Accelerating Real-World Logistics」、Figure 03製品仕様ページ**が最重要です。<sup>34</sup>

日本語の二次資料としては、**BelnCrypto日本語版**と**Binance Square日本語版**が結果紹介をしています。ただし、どちらも一次情報の再伝達であり、**検証の主柱には使えません**。あくまで日本語読者向け参照先です。<sup>35</sup>

### Figureに追加で要求すべき検証データ

Figureに検証目的で求めるべき追加データは明確です。第一に、**10時間の秒単位イベントログ**です。各個体の pick attempt, barcode visible, placed face-down, misoriented, drop, reset, maintenance leave, swap-in, swap-out を時刻付きで出すべきです。第二に、**採点ルールブック**です。既に正向き荷物の取り逃し、落下、ラベル不読をどう扱ったかが必要です。第三に、**荷物マニフェスト**です。寸法、重量、材質、ラベル位置、SKU多様性、繰り返し率が要ります。第四に、**ロボット個体IDとビルド情報**です。対決中に同一個体が継続したか、ファームウェア/モデル重みのバージョンはいくつか、校正はどうしたかを示すべきです。第五に、**エネルギーと充電・交代ログ**で、SOC推移、待機機体数、交代理由、交代時間を公開すべきです。第六に、**第三者審判または第三者監査報告**です。最低限、遠隔操作不使用、スコア定義、ログ完全性について、外部署名が必要です。これらがなければ、このイベントは強いデモではあっても、**再現可能なベンチマークにはなりません**。<sup>36</sup>

### 未解決点と限界

現時点で未解決なのは、**対決で使われた正確な荷物仕様、人間側休憩の時刻と総時間、ロボット側が単一機体かロボットチームか、誤り率と介入回数、同じ荷物の繰り返し率、内部ログの有無と第三者監査の有無**です。これらは公開資料からは埋まりませんでした。したがって、本報告の定量比較は、**最終スコアは高信頼、途中時系列は中信頼、誤り率は再計算不能**という強弱づけで読むのが適切です。<sup>37</sup>

🔗navlist🔗最近の主要報道と論点整理🔗turn17news27,turn17news28🔗

<sup>1</sup> <sup>6</sup> <https://www.youtube.com/%40figureai>

<https://www.youtube.com/%40figureai>

<sup>2</sup> <sup>21</sup> <sup>37</sup> [https://www.linkedin.com/posts/brettadcock\\_congrats-to-aime-he-said-his-left-forearm-activity-7461977411618852864-HRWf](https://www.linkedin.com/posts/brettadcock_congrats-to-aime-he-said-his-left-forearm-activity-7461977411618852864-HRWf)

[https://www.linkedin.com/posts/brettadcock\\_congrats-to-aime-he-said-his-left-forearm-activity-7461977411618852864-HRWf](https://www.linkedin.com/posts/brettadcock_congrats-to-aime-he-said-his-left-forearm-activity-7461977411618852864-HRWf)

<sup>3</sup> <sup>9</sup> <sup>13</sup> <sup>14</sup> <sup>15</sup> <sup>27</sup> <sup>36</sup> [https://www.linkedin.com/posts/figure-ai\\_f03-livestream-day-5-man-vs-machine-day-activity-7461823611641708544-bYx-](https://www.linkedin.com/posts/figure-ai_f03-livestream-day-5-man-vs-machine-day-activity-7461823611641708544-bYx-)

[https://www.linkedin.com/posts/figure-ai\\_f03-livestream-day-5-man-vs-machine-day-activity-7461823611641708544-bYx-](https://www.linkedin.com/posts/figure-ai_f03-livestream-day-5-man-vs-machine-day-activity-7461823611641708544-bYx-)

<sup>4</sup> <sup>29</sup> <https://www.figure.ai/news/introducing-figure-03>

<https://www.figure.ai/news/introducing-figure-03>

- 5 7 33 [https://www.linkedin.com/posts/brettadcock\\_tomorrow-10am-pt-man-vs-machine-activity-7461605000281210880-jrOE](https://www.linkedin.com/posts/brettadcock_tomorrow-10am-pt-man-vs-machine-activity-7461605000281210880-jrOE)  
[https://www.linkedin.com/posts/brettadcock\\_tomorrow-10am-pt-man-vs-machine-activity-7461605000281210880-jrOE](https://www.linkedin.com/posts/brettadcock_tomorrow-10am-pt-man-vs-machine-activity-7461605000281210880-jrOE)
- 8 <https://www.figure.ai/news>  
<https://www.figure.ai/news>
- 10 [https://www.linkedin.com/posts/brettadcock\\_figure-just-live-streamed-8-hours-of-fully-activity-7460495299942248449-Fe5n](https://www.linkedin.com/posts/brettadcock_figure-just-live-streamed-8-hours-of-fully-activity-7460495299942248449-Fe5n)  
[https://www.linkedin.com/posts/brettadcock\\_figure-just-live-streamed-8-hours-of-fully-activity-7460495299942248449-Fe5n](https://www.linkedin.com/posts/brettadcock_figure-just-live-streamed-8-hours-of-fully-activity-7460495299942248449-Fe5n)
- 11 <https://www.instagram.com/reel/DWELgs4gp3s/?hl=en>  
<https://www.instagram.com/reel/DWELgs4gp3s/?hl=en>
- 12 <https://www.instagram.com/p/DKc9Y-hBrHn/>  
<https://www.instagram.com/p/DKc9Y-hBrHn/>
- 16 28 30 <https://interestingengineering.com/ai-robotics/figure-ai-humanoids-24-hour-autonomous-run>  
<https://interestingengineering.com/ai-robotics/figure-ai-humanoids-24-hour-autonomous-run>
- 17 <https://www.figure.ai/news/helix-logistics>  
<https://www.figure.ai/news/helix-logistics>
- 18 24 25 26 31 <https://www.businessinsider.com/figure-ai-turned-a-humanoid-sorting-packages-must-see-tv-2026-5>  
<https://www.businessinsider.com/figure-ai-turned-a-humanoid-sorting-packages-must-see-tv-2026-5>
- 19 <https://humanoid.guide/figure-ai-humanoids-demonstrate-24-hour-sorting-in-livestream/>  
<https://humanoid.guide/figure-ai-humanoids-demonstrate-24-hour-sorting-in-livestream/>
- 20 22 <https://www.figure.ai/figure>  
<https://www.figure.ai/figure>
- 23 <https://www.figure.ai/news/scaling-helix-logistics>  
<https://www.figure.ai/news/scaling-helix-logistics>
- 32 <https://www.cdc.gov/niosh/hhe/reports/pdfs/2019-0024-3398.pdf>  
<https://www.cdc.gov/niosh/hhe/reports/pdfs/2019-0024-3398.pdf>
- 34 <https://www.youtube.com/live/luU57hMhkak>  
<https://www.youtube.com/live/luU57hMhkak>
- 35 <https://jp.beincrypto.com/figure-ai-f03-robot-human-intern-contest/>  
<https://jp.beincrypto.com/figure-ai-f03-robot-human-intern-contest/>